学校選択制について考える（３）ーー杉並での廃止！

■ 3 月 31 日の朝日新聞で、23 区の中で杉並区が初めて学校選択制を 2016 年度から廃止することを決めたと報じました。東京都では、江東区が 2009 年度から、多摩市が 2013 年度から「縮小」することを決めています。さらに、新宿区・江戸川区でも「見直し」の議論が始まっています。明らかに、学校選択制は、「見直し」「縮小」「廃止」の流れへと転換したと言えます。

杉並区、学校選択制廃止へ　「教育内容で選ばれず」
http://www.asahi.com/national/update/0331/OSK201203310060.html

　東京都杉並区教委は、小中学校で実施している学校選択制を２０１６年度に廃止する方針を決めた。競争原理導入による学校活性化を目指したが、校舎の新しさなど、教育内容と関係ないことで学校が選ばれる傾向があるためという。

　学校選択制は、一定の地域内で、通いたい学校を自由に選べる制度。東京２３区のうち１９区が選択制を導入しているが、廃止方針を決めたのは杉並区が初めて。杉並区が導入から１０年になるのを機に検証したところ、一部の学校に人気が集中したり、事実に基づかないうわさで希望者が激減したりするなどのデメリットが目立ってきたという。

　ＰＴＡ役員や校長らを対象にしたアンケートでは、３分の２が「制度の廃止か見直しを」と回答した。東日本大震災を機に登下校時の安全を重視する保護者も増え、「選択制は地域と学校のつながりを希薄にするのでは」との問題意識も高まっているという。

■杉並区の学校選択制は、山田区長（当時）のトップダウンで、2002 年度から「隣接校選択制」として始まりました。当初から「選ばれる学校」「選ばれない学校」がはっきりと別れていました。

2010 ～ 2012 年度入学者の中で、「隣接の学区域からの転入－転出者数」を見ると

中学校数（全体 23 校）	2010 年度	2011 年度	2012 年度
マイナス 30（40）人以上	４（４）	７（４）	８（６）
プラス 30（40）人以上	５（２）	４（４）	５（４）

明らかに中学校で格差が広がっていることがわかります。いったん希望者数が減り始めれば、それはどんどん拡大してっています。

■杉並区の学校選択制の動きとの関わりで見ておきたいのが、学校統廃合の動きです。学校統廃合が学校選択によって進められようとしています。

2007 年 7 月、杉並区教委は、「小中学校適正配置のための再編構想」を発表し、小学校を 44 校から 39 校に、中学校を 23 校から 18 校に統廃合する計画を打ち出しました。杉並の統廃合の対象になりそうな地域では、反対運動が起こっています。